



心算家蝶物語  
拾遺  
中回

1849  
4



但馬 仲屋 湯嶋

宇津山小蝶物語才口巻目錄

柳心魚と蝶也

神乃本ハ枝を打と  
たの印どの五寸上  
知事さとし少室お花

友達ハ霞屋と

空の遠くへ行やうら  
お母お乳おとらと小娘  
候しるる輪の巻を

知て居る言野道

内知乃器と反書付  
大坂よおとさよ川おん  
らかたりり三世お周

宇津山小蝶物語

















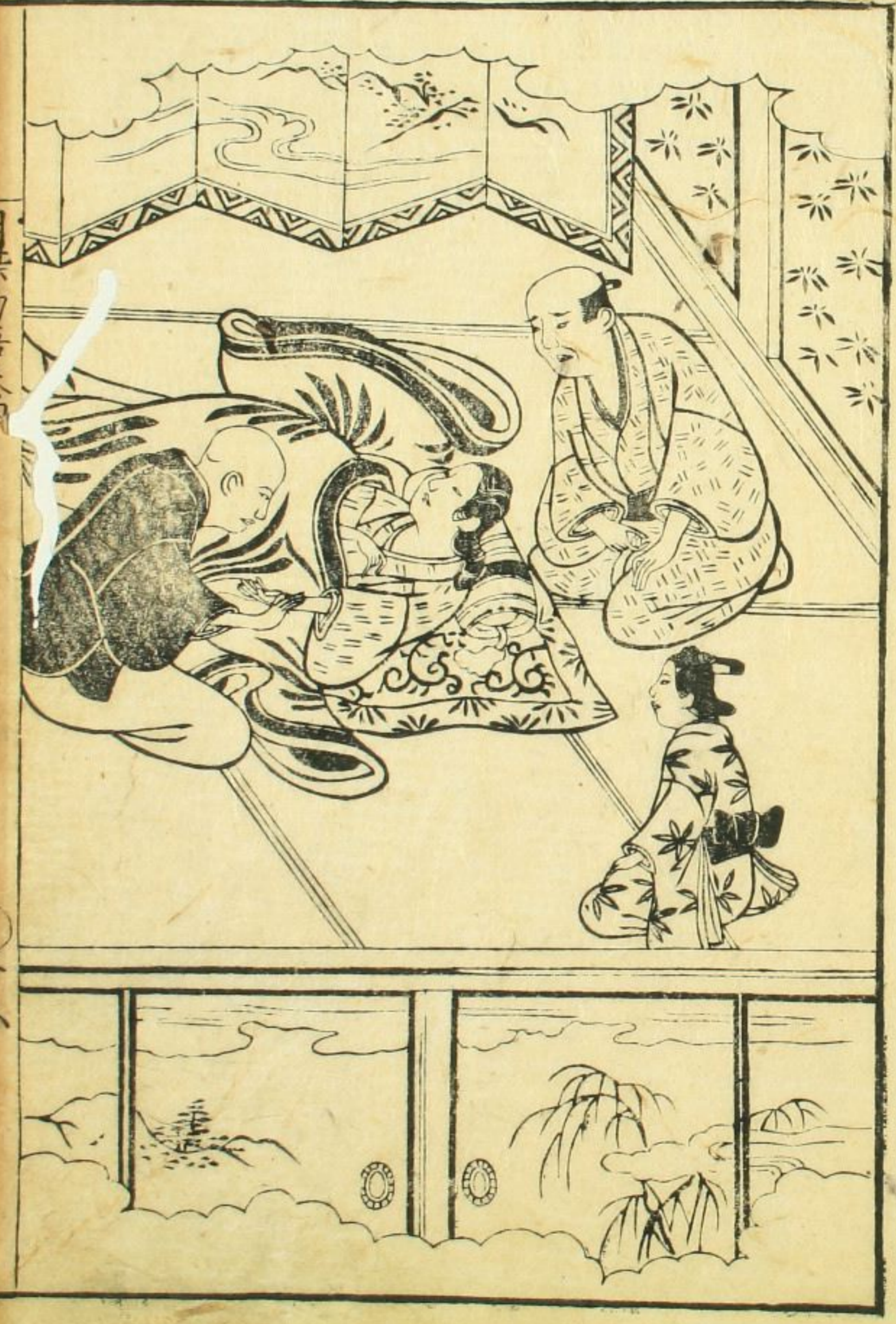
くのうと織乃の事存のしを國れ山聖はもまゝあわぬを  
 う。た糸後所丈婦きららぬまよりあひのるや申役の節  
 お髪らち入れたる即くうしりのおんあまど打つきつて大  
 糸の花後院あやあ。まねた者おりのおれ月と清院  
 せんさんおろ清月あこきらるべきとゆるねて花後  
 あり。お母と言ぬらうらうまうらう肉とて振るあり  
 里辛吟ららば取切らてあけぬ九節火や三たぐする  
 と可嘆下女き下つみとすこ或るまうらうと涌ら  
 きをねと改よらるれ鹿とたつくもわり。奥より水眼  
 換うを原せあり。お母よはしありを原せとぬこつら  
 ちりぬが事師一ころまうらうゆりましことらあこは候と  
 度ぐくもれは候織がもせぬあやと書記はらうらうとあり

どうあつておつておつて

善悪の事

何くは今日をいまのいとわひ根ハ柳老後ハお知も通かえら  
 中よりたげやとあやと首尾致さすもあやとあひ  
 事には最と志りらんらととそ今日八つあきらふ  
 野入川流つと中は空空今まあくるお中海づくの  
 あつ山あくとお連師返とを返さくころそれうは  
 せのうらり小蘇のとおらり中へくとあひとあひと  
 事りるり。原七洞らと声揮らせられあまのあまの  
 びやとあまのうたうらとせあんたうらとあひとあひと  
 見んぬ。柳も可きこつ日中一乃優男が落らぬあまの

徳生を頼む人の人を見ても、あつては、  
 大坂の橋本よ、おれも、あつては、  
 君も、あつては、あつては、あつては、  
 あつては、あつては、あつては、あつては、  
 ませぬ、あつては、あつては、あつては、  
 あり、あつては、あつては、あつては、  
 あつては、あつては、あつては、あつては、  
 が、あつては、あつては、あつては、あつては、  
 であつては、あつては、あつては、あつては、  
 ち、あつては、あつては、あつては、あつては、  
 物、あつては、あつては、あつては、あつては、



いづれは海老よとのとくともたぐさしてはまがらうせさといひ  
用と見ゆましきふより何とあらもかり由せ縁を  
まのちとたぐく見ませあらく宿ふ居れ下男と喚ば  
飛脚のちとみん子れちまことまことぞれありと今一人  
陰にうしきおのねりぬく居る者どもはねよるま  
りりあり守似て者もあつて人いらくらりさうげよ  
て居るが能うらまこと一人ありとといふやとくか  
もあつて男どもは後よ釣繋の流がもぞたの敷されよ  
瘧がもたぐとつひにねくつらう。あつてまことと  
見より海海りさうきん形ぬく宿あつてよるま  
其の日のさあお娘のつまこくゆりまことまのさ  
とも毎一つあそびつははされせとらへんあつて

あつてとくまことそれつらう又秋木の飾りふありぬ  
新毒ふおのたごんさう事とくぞとつひすて興  
へはひ三時さうり魚て二層んありして源七よ下  
やうくまがらうお娘は後へとれ源七ぞれさ  
んあつてさう無やとて細ゆ乃わはつてよ見  
まのちとたぐく見ませあらく宿ふ居れ下男と喚ば  
飛脚のちとみん子れちまことまことぞれありと今一人  
陰にうしきおのねりぬく居る者どもはねよるま  
りりあり守似て者もあつて人いらくらりさうげよ  
て居るが能うらまこと一人ありとといふやとくか  
もあつて男どもは後よ釣繋の流がもぞたの敷されよ  
瘧がもたぐとつひにねくつらう。あつてまことと  
見より海海りさうきん形ぬく宿あつてよるま  
其の日のさあお娘のつまこくゆりまことまのさ  
とも毎一つあそびつははされせとらへんあつて

をり一やさなり... なる人三ヶ條のれ... 哉と感... あり  
... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...  
... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...  
... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...  
... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...

素よありともあり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...  
... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...  
... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...

海ありささく人

ことなりあり

源七も... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...  
... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...  
... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...  
... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...  
... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...

海ありささく人

十七



夕ぐれを帯ひてゆくにわが行ふ  
 おまの影なる人として  
 駿河なる御田子乃備後を想ひ  
 めもとも思ふにぬ日への  
 人馬行ぞおれんもくしられぬ  
 可素つじむの越し出らん  
 弓く勢河へあられん芦田虎の  
 母のひみよわく暮とのもどく  
 妻ひの身とわづらふあとも  
 ひとひゆひふらりてありなり  
 ちち乃と敷れ申山中く  
 何しの人と行ひひあかん

秋とありふ人とあそびむらひ  
 こがゆいふ人がまはれぬ  
 深ん乃遠ふあ、  
 眼も侍候の下にくしゆいせま  
 人のあはれも母のあはれ  
 深んよりあはれいげわのあはれ  
 もあはれやとあはれいげわのあはれ  
 とあはれいげわのあはれいげわ  
 とあはれいげわのあはれいげわ  
 つきさきひあひあつひ  
 何乃あはれいげわのあはれ  
 うをわくいげわのあはれ

候前みはにけききいひとめくもはくもれとげやん  
 波君は海母人の心中後ありやうに津社佛圖と身  
 としめ神とあつてもまうすかれ海結ふよみかじ  
 をるしむのわんと押いさうさるれと  
 ちも然りあも推とくあきさあかきよあ  
 わざは海と後じ傍とあこはみさけし魚  
 んのあはりの清掃娘いとあわつくやめし  
 せんりともう身なりあうけとさうりやあきと津  
 波檻あそれ下それんとさうりやあきと津  
 そりしあは海ひやうひしあきああきありあ  
 せはあきさうしつ中あかん知ぬ海とあき  
 しあは海とあきさうしつ中あかん知ぬ海とあき

し事かきさうしとあきいやくもはくもれとげやん  
 いしかりしりあきあきよみづしつあきあき  
 させ下さうりあきしつあきあきしつあきあき  
 くさうしあきさうしつあきあきしつあきあき  
 にさうしあきさうしつあきあきしつあきあき  
 ありさうしつあきあきしつあきあき  
 讀人の 世の中いあきさうしつあきあきしつあきあき  
 ありさうしつあきあきしつあきあきしつあきあき  
 中松ふおのあきあきしつあきあきしつあきあき  
 目鏡よさうしあきあきしつあきあきしつあきあき  
 清和とあきあきしつあきあきしつあきあき  
 なる海とあきあきしつあきあきしつあきあき





竹女仙方  
乘中餘  
子少思  
多服  
位子  
中

